

豊の国歴史ロマン街道

— 仏教文化と交流の道・周防灘の恵みと景観 —



北九州市	人口 96.4万人	面積 489.6km ²
小倉北区	人口 3.6万人	面積 46.6km ²
小倉南区	人口 7.2万人	面積 69.8km ²
小倉東区	人口 2.0万人	面積 151.3km ²
小倉南区	人口 1.8万人	面積 119.4km ²
小倉南区	人口 2.6万人	面積 111.2km ²
小倉南区	人口 0.6万人	面積 5.7km ²
小倉南区	人口 0.8万人	面積 62.4km ²
小倉南区	人口 6.4万人	面積 491.2km ²
小倉南区	人口 5.6万人	面積 439.1km ²

平成 26 年 2 月 1 日推計

人のくに、美のくに九州（日本風景街道Q-10）



小倉市松山城跡より周防灘を望む

目次

一 豊の国歴史ロマン街道の全景

大和朝廷と遠の朝廷である太宰府政庁を結ぶ

「豊の国歴史ロマン街道」

二 大都会にある北九州地区間

- 1 古代の銀座街道としての歴史的想記
- 2 律令国家から今日までの様相
- 3 歴史性および地理的特性からみたロマン街道の3地区分割の視点

大陸文化の流入路としての古代の銀座街道

三 周防灘に望む京都・築上区間

- 1 古代の交流を象徴する官道
- 2 仏教文化の匂い漂う地域
- 3 産業化への道
- 4 みどころガイド

日田の天領や宇佐へのみちの中津街道

四 自然と文化の宝庫の中津・宇佐地区間

- 1 往時を辿る
- 2 中世以降の領国形成から近世、近代そして現代
- 3 石橋の文化
- 4 みどころガイド



① 中津街道など五街道の
起点であった
常盤橋(1995年)に現在の
ものにかき替えられた
(北九州市小倉北区)



足立山妙見宮 (北九州市小倉北区)



常盤橋たもとの伊能忠敬測量200年記念碑

一 豊の国歴史ロマン街道の全景

1 古代の銀座街道としての歴史的想記

豊の国歴史ロマン街道が日本風景街道の九州ルートへの登録は、10番目で平成22年2月に九州風景街道推進会議により承認された。ルートは周防灘に面した九州の東側を通っており、北九州市の常盤橋①・②から大分県の宇佐神宮(宇佐八幡宮)に至る約77kmである。途中、歴史遺産として律令国家体制時に構築された官道の西海道本道が門司より北九州市の到津を経由し、筑前国の諸々の駅を通って筑前太宰府へのルートおよび西海道豊前路は筑前太宰府を起点に周防灘沿岸域を通り宇佐として豊後国に至っているのが見られる。特に、中央の大和政権と太宰府を結ぶ要衝の地の京都郡と仲津郡を隔てるところに7世紀の構築と言われている御所ヶ谷神籠石がある。その山地の裾野を西海道豊前路は通り、当時を偲ばせている。また、その後の近世における中津街道も本風景街道に含まれており、これらの地域は律令国家成立から今日に至るまでの歴史の年輪を肌で感じられる所が多数存在する。例えば、名所旧跡巡りや伝統文化では茹田町にある国指定重要無形民俗文化財の等覚寺のお祭りである松会③や、その他、この地域に多数残っている「お神楽」はお祭りと同時に行われている。普段では見られないので、祭礼に合わせるのも良い機会である。また、等覚寺の棚田等の風景④や散策等の見所が豊富だ。加えて、周防灘を望む景観の素晴らしさ、美味しい豊前海一粒かきや果物のいちじく等の特産物を食するのも楽しみの一つだ。

2 律令国家から今日までの様相

この地域の時代を遡ってみると、大化の改新以前は大きく筑紫国、豊国、肥国、熊曾国に分れていた。その後、持統朝の律令国家体制下のころに豊国が豊前国(企救(きく)郡、田河(たがわ)郡、京都(みやこ)郡、仲津(なかつ)郡、築城(ついき)郡、上(三)毛(かむつみけ)郡、下(三)毛(しもつみけ)郡、宇佐郡と豊後国に分割され、他は筑紫国が筑前国と筑後国に、肥国が肥前国と肥後国に分割され、熊曾国と合わせ7国に分かれる。これらの中の豊前国の地域に本風景街道のルートが通る。

古代の主要交通路である官道について関係するところを見ると、北九州地区間では門司の杜崎駅を出発点とすると到津(いたむつ)駅(小倉北区)→多米(ため)駅(京都郡みやこ町)→田河(たがわ)駅(田川市)→綱別(つなわけ)駅(飯塚市)→伏見駅(嘉

麻市) から筑前国内の諸々の駅を通り筑前太宰府に至る西海道本道、西海道東路が到津駅を出発点になると刈田(かりた)駅(京都郡苅田町)ゝ多米駅ゝ田河駅ゝ綱別駅ゝ伏見駅そして筑前国のその他の駅から筑前太宰府に至る区間である。京都・築上区間と中津・宇佐区間では西海道豊前路が筑前太宰府を起点に筑前国内の諸々駅を通り田河駅ゝ多米駅ゝ豊前国府(京都郡みやこ町)ゝ築城(ついき)駅(築上郡築上町)ゝ上毛駅(築上郡上毛(こうげ)町)ゝ下毛駅(中津市)ゝ宇佐駅(宇佐市)ゝ安覆(あしど)駅(宇佐市)から豊後の国の長湯駅(別府市)へと繋がっており、ほぼ現在のルート原型となっている。その主要な駅を挙



② 豊の国歴史ロマン街道の通り (北九州市小倉北区)

げると、本風景街道の関係では起点側から到津、刈田、多米、築城、上毛、下毛、宇佐、安覆の順に豊後国に向かって整備されている。

また、この豊前地域は西海道豊前路の官道に沿って白鳳期に建立された寺院が多数存在していた。これは大陸からの仏教文化を始めてとする学問や諸文化が本官道を通じて中央の大和政権へ繋がるルート上にあったことから推察される。その配置形式は京都府では四天王寺式伽藍配置(椿寺廃寺)、仲津郡では法起寺式伽藍配置(上坂廃寺)であり、それ以外の形式については上毛郡域では法隆寺式伽藍配置(垂水廃寺)が見られ、同様の形式は東南地域の宇佐郡の法鏡寺廃寺、虚空蔵寺廃寺が存在していた。これらは、まさに鎮護国家としての仏教の強い影響が窺え、特に、宇佐地方は上述の二つの廃寺を



③ 等覚寺の松会 (苅田町)

含め、8世紀前半に東大寺式の伽藍配置を備えた弥勒寺(廃寺)の建立等からみて九州における仏教文化の先進地であったと言える。また、英彦山の大権現(霊仙寺)を中心に山岳修験道は豊前国に波及し、京都郡の普智山の等覚寺や上毛郡の求菩提山の護国寺、上毛郡の松尾山の医王寺等では修験道の山岳宗教が盛んに行われていた。さらに、地方行政官庁の中心である豊前国府が仲津郡に設置(みやこ町)され、それと対をなす豊前国分寺、豊前国分尼寺の存在も大きな意味を持っている。

律令の時代から中世に入り、壇ノ浦の決戦以後、鎌倉幕府は九州全域に及ぶ強い権限を持つ鎮西奉行を置き、その奉行に天野遠景を命じた。しかし、鎮西御家人の支持が得られなくなり、それはやがて守護職に変遷していく。その後、九州は武藤資頼が筑前国、肥前国、豊前国と二島(老岐、対馬)を、大友能直が筑後国、豊後国、肥後国を、島津忠久が薩摩国、大隅国、日向国を支配するようになる。また、中世社会は荘園、公領が経済的基盤として展開され、宇佐八幡宮、弥勒寺、筑前国の安楽寺(太宰府天満宮)等が大きな勢力範囲を形成していた。蒙古襲来後の南北朝の動乱の時代は守護職の少弐頼尚の一族が豊前国を統治している。南北朝統一後の1397(応永4)年に大内氏が豊前国の守護職に就く、その間、大友氏との攻防が続くが、その後、戦国時代の終わりの1559(永禄2)年に大友氏が豊前、筑前の守護職になる。大内氏滅亡後、それに替わり中国地方の雄の毛利氏との抗争の変遷後、豊臣秀吉の九州平定がなされる。

豊前国は中世を経て近世に入ると小倉藩と中津藩に分かれ、明治維新後の廃藩置県、その後の郡区町村編制法、市制町村制等の施行による変遷を経て、戦後の町村合併促進法等を辿り、近々に行われた平成の大合併を通じ、それが表紙の市町村で、現在の行政の区域となる。

現在の交通体系の特徴は、小倉北区より大分、宮崎方面へ国道10号と鉄道のJR日豊本線が周防灘沿岸部を通り、さらに、山間部寄りに高速自動車国道の東九州自動車道が一部の豊前区間を除いて、宮崎まで開通しており、全面開通は平成28年に予定されている。その完成後の行動圏域は広範囲に拡大し、生活圏域、経済圏域への影響と共に交通基軸としての効果が期待できる。



図1 北九州地区

(1) 北九州市の小倉北区、小倉南区を通る

本風景街道のスタート地点・小倉北区は宇佐への中津街道や門司区への門司往還、長崎への長崎街道や秋月、久留米への秋月街道および唐津への唐津街道と五つの街道が集結しており、九州の重要な玄関口であった。

ちなみに、関連をみると九州から赤間関へは渡航地の大里から山陽道に繋がり、中津街道は中津から南の宮崎へは日向街道、長崎街道は筑紫野市の山家宿から分かれて鹿児島市への薩摩街道となる。これらをつき合わせると現在の道路体系の基となっていることが分かる。今日では下関と門司の間を関門海底国道トンネルおよび高速自動車国道の関門自動車道(関門橋)で本州が結ばれており、それと連結して九州縦貫自動車道が九州の西回りを通り、北九州JCTで東九州自動車道に分岐し、これが九州の東回りを担っている。後者は現時点では行橋市を経て、一部の未開通区間を除いて宮崎まで通じているが、全面開通は平成28年と予定されており、社会的構造の変化や地域経済への波及効果が期待されている。



④ 等覚寺の棚田 (小倉町)

小倉南区では細川忠興が1615（元和1）年に曾根・朽網間に新田開発のために築堤をする。これが「千間土手」と言われるものであり、中津への中津街道として使用されるようになる。この海岸域は曾根干潟として貴重な環境資源として今も残る。

本地区は、市街地と郊外の田園風景を併せ持つ地域であり、郊外は森林浴やウォーキングコースに最適で、国道322号の徳力交差点より県道258号線に入り南下したところの頂吉（カグメヨシ）は、紫川の起点があり、その原点が確認できる。他に、近隣に鱒淵ダム（貯水量1360万立方メートル）⑤とサイクリング・コースがあり、その直下に鱒淵公園等の憩いの場が多数ある。

（2）荇田町、行橋市、みやこ町、築上町、豊前市、吉富町と上毛町を巡る

荇田町については、貝原益軒の「豊国紀行」の中に中津街道沿いの名所等の記述がある。小倉南区と京都郡に広がる平尾台カルスト台地にある青龍窟と修験道の等覚寺で、他に、19世紀初頭に尾張の商人の菱屋平七の「筑紫紀行」では、荇田町の尾倉村や与原村の集落の様子として数十戸の農漁村と記されている。また、1809（文化6）年12月～7年1月と1811（文化8）年1月に伊能忠敬が測量のために下曾根村（北九州地区）、荇田村を含む東海岸線を実測しており、常盤橋の横に記念碑がある。現在では、その海岸の沖合に当たる小倉南区の曾根と荇田町との境界線上に海上空港としての北九州空港が平成18年に開港し、北九州市民や京都・築上地域、大分圏域、山口県南西



⑤鱒淵ダム：サイクリングロード（北九州市小倉南区）



⑥荇田港臨海工業地帯（荇田町）

部域、関門地域や遠賀地域の人々の利便性に貢献している。さらに、東九州自動車道の荇田北九州空港ICや荇田港と合わせて交通の結節点形成し、その交通拠点性を高めている。そのような陸路、海路、空路の各交通条件が整備されている地域は全国でも数少ない。国道10号より東側の周防灘に面したところに上述した重要港湾の荇田港が位置し、そこに我が国を代表する自動車やセメント工場が立地し、臨海工業地帯⑥が形成され、県内随一の工業製品出荷額を誇っている。それぞれの企業は工場見学も可能である。



図2 荇田・行橋・みやこ・築上・豊前・吉富・上毛地区

一方、工業立地系と反対の西側にある住宅立地系との境界付近に国道10号が通り、その地域は後背部に向かって田園地帯が広がる。山間部は古第三紀層の堆積から新第三紀中新世層頃に隆起した呼野層群の平尾台のカルスト台地に連なり、平尾石灰岩、田川変成岩・花崗岩が広く分布している。前者は多くの来訪者で賑わっている。

次に通過する**行橋市**は、特に、律令国家、中世、近世の時代を通じて小波瀬川の流域の葛野（くさの）津（現行橋市の草野）が瀬戸内海を利用して中央との海上交通の交流拠点として、また、近世において本市は中津街道の宿場町の大橋として栄えた。近代においては1895（明治28）年に九州鉄道の小倉～行事間が開通、さらに、豊州鉄道が行橋～伊田間に開業するに至り、両駅共同の行橋駅が開設された。このように鉄道の敷設により京都・築上地域の陸上交通の拠点となる。これ以降、行橋市は京都・築上地域の中心都市として発展してきた。今日では北九州市の通勤圏域で北九州市圏の一都市を形成している。

行橋市と隣接する**みやこ町**は前述したように律令国家体制下には豊前国府が置かれ、豊前国の政治の中心であった。それと同時に鎮護国家を支える意味合いから聖武天皇は741年に「国分寺建立の詔」を発し、全国に国分寺、国分尼寺を建立するように定め、豊前国の国分寺もその一環で建てられている。

前者は封戸50戸、僧20人、水田10町、後者は尼僧10人、水田10町の組織と待遇が与えられており、仏教の信仰による世の中の安寧に対する思いが窺える。国府跡は現在公園で、国分寺は建て替えられており、三重塔が面影を残している。それらの史跡は国道496号沿線に位置している。

また、行政的には廃藩置県後、豊津県となり、同年に小倉県に編入された。さらに、小倉県は福岡県に編入され、今日の福岡県に至る。歴史に登場するものとして1876年、秋月の乱の主戦場となった。

域内の交通体系は、行橋市と田川市を結ぶ平成筑豊鉄道が通り、道路体系では行橋市から英彦山方面に向う国道496号、椎田方面への主要地方道椎田勝山線の58号と行橋市から田川市、飯塚市を通過し福岡市に向かう国道201号がある。

築上町は周防灘に面した沿岸部に菅原道真公ゆかりの綱敷天満宮があるが、この当時から瀬戸内海を通じて海上交通が主流をなし、豊前国との交流や大和朝廷と太宰府との交通路であったことが分かる。名所・旧跡としては国の天然記念物の樹齢1900年と言われる本庄の大楠が有名である。また、県道58号沿いに位置し、メタセコイアの木々⑦に囲まれた静かな環境の中にあり、みちの駅的機能を持ち、地元の特産物を中心に販売している物産館の「メタセの杜」⑧は、近隣の地元はもとより、遠方は北九州市、中

津市、宇佐市等からの買い物客で賑わっている。さらに、町民やドライブ客の憩いの場を提供し、あるいはレクリエーションの場としても人気の高い場所でもある。同地域の椎田は近世では中津街道の宿場町で、「彦九里、小倉九里、宇佐九里」と言われ、築城郡を統括する郡屋、物産屋等があり、郡の中心を成していたが、しかし、今日では小売の商店街である。

現在の道路体系は、主要幹線道路が3本並行し、国道10号、主要地方道の椎田勝山線58号および東九州自動車道の一翼を担う椎田道路がそれであり、各道路は交通量も多い。国道10号沿いには航空自衛隊築城基地があり、11月には航空祭が開催され、町民や他地域の人々との交流が行われている。地形的には北西から東南に向かって山々が連なり、国道10号から山地側の南に向かって行橋側から県道寒田下別府線237号が本庄の方面へ、県道小山田東八田線235号が小山田の方面へ、日出野椎田線233号が豊前変電所や岩丸川の方面へ、求菩提椎田線234号が林間学校や宿泊施設も完備した保養地のビバ・バラディの方面へ、県道黒平椎田線231号が小原正八幡宮、小原不動窟の大ソテツの方へ、県道の河内有安線298号が六社神社、周防灘カントリークラブの方面に延びている。このように山地に向かい各縦断方向に道路が通るが、山地側でそれらを連結する横断道路は存在しない。

豊前市では豊の国歴史ロマン街道でみると中津方面に向かう椎田道路の延長線と国道10号と交差するところに道の駅の「豊前おこしかけ」⑨があり、神功皇后の「お腰掛



⑦メタセコイアの杜（築上町）



⑧物産館メタセの杜（築上町）



⑪八屋宿の四辻（豊前市）



⑨道の駅「豊前おこしかけ」（豊前市）



⑫求菩提山（豊前市）



⑩松江の宿（豊前市）



⑬大ノ瀬官衙跡（上毛町）



⑭大ノ官衙跡（復元模型）（上毛町）

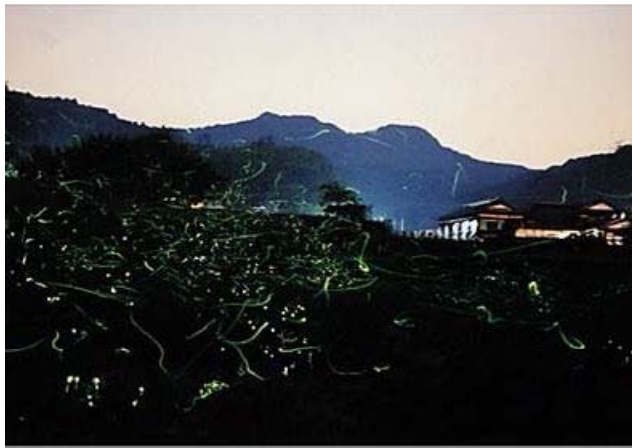
け」伝説のある場所の近傍である。ここは大方面へ、逆に、福岡方面へと、それら両方向に対して中継点としての好位置にあり、利用客でみると地元の京都・築上地区が多数を占め、遠方からは頻度的に少ないが東京、静岡県、大阪府、兵庫県等であり、近隣では北九州市、下関市、中津市等が見られる。交通目的は観光、レジャー中心で休日には、ほぼ満員状態となる。他に、本市は近世当時の松江宿場跡⑩や八屋宿場跡⑪等がある。特産品として海の幸の牡蠣、ワタリガニ、シヤコは有名である。また、豊前市に限らず京都・築上地域は山岳信仰を基とした神楽は盛行されている。特に、豊前市では山岳信仰における修験道のメッカの一つであった求菩提山⑫が有名であり、当時、山には500坊と呼ばれるほど、山伏達が住みつき活況を呈していた。2013（平成24）年にここでの農村景観は国の重要文化財的景観に指定されている。

吉富町は本街道に関係する市町村では町域の面積が最も小さな自治体で、山国川が周防灘に面した河口に位置している。律令国家時代には前述しているように他の市町村と同様に豊前国で上毛郡に属していた。近世では中津藩の領域であったので、現在も経済的には中津都市圏に含まれており、通勤・通学は30%を示している。

交通体系は、小さな町域面積であるが、JR日豊本線が通っており、吉富駅が利用できる。一方、道路体系では県道中津豊前線113号が中津へ向かうルート上にあり、さらに、本町より分岐して県道富士吉富線109号が修験道で有名な松尾山へ向かっており、交通アクセスは良い方である。



⑮ 道の駅（しんよしとみ）（上毛町）



⑯ 友枝川のホテル（上毛町）

上毛町は山国川の河岸段丘沿いの上唐原、下東原付近を中心に縄文時代の遺跡から土偶が多数出土し、福岡県内の同種類の半数以上が当地で占められ、このことは特記すべきことである。同じ地域に3〜7世紀頃の古墳時代で国指定史跡の穴ヶ葉山古墳が分布しており、古墳の規模としては京都地域と宇佐地域の中間的な墳墓である。律令国家体制下では上毛郡に属し、その郡役所である大ノ瀬官衙遺跡⑬⑭が国道10号沿いに発掘されており、それにより当時の建物の構図を知ることができ、文字通り大和朝廷における郡の中心を成していたことが分かる（国指定の文化財）。

また、豊前市と同様に修験道の山として知られている松尾山は寺号を医王寺と称し、山伏達が加持祈禱を行った護摩壇等が残っており、県の指定有形民俗文化財となっている。

さらに、前述した下唐原に7世紀中頃の築城で古代山城の唐原山城跡、その近辺に7世紀末から8世紀初めとされる友枝瓦窯跡が見られ、それらは、いずれも国指定史跡である。このように当町には多数の文化資源が見られる。

道路体系では国道10号、吉富町から耶馬溪方面に向かう地方主要道吉富本耶馬溪線16号、吉富町から福士へ向かう一般県道の福士吉富線109号、高速自動車国道の東九州自動車道が通っており、しかも、町内には平成27年に上毛スマートICが完成しているため北九州方面や大分方面への両方向のアクセシビリティが飛躍的に向上し、広

域的な交流が活発化すると言える。

また、国道10号沿いに「大ノ瀬官衙遺跡」と隣接して地元のこだわりの味による特産物や匠の技による製品等を販売している道の駅「しんよしとみ」⑮が立地しており、多くの買い物客で賑わっている。自然に目を向ければ友枝川と東友枝川を中心としたところはホテルの群生地⑯で6月上旬には源氏ホテルが飛び交い幻想的である。

さらに、山間部の山と棚田が織りなす調和のとれた景観は訪れた人々の心を和ませる。

（3）中津市と宇佐市を通る



図3 中津・宇佐地区

中津市は大分県内で大分市、別府市について3番目の人口を誇る都市である。律令国家体制では豊前国であったので同領域に含まれていた北九州市、京都・築上郡との結び付きが強く、北九州都市圏への通勤・通学が5%程あり、今でもその圏域を形成している。ただ、本市は律令国家時代において下毛郡の中心をなしており、長者屋敷跡はその郡役所の跡（正倉の跡がある。）として残存している。



⑪ 福沢諭吉旧居（中津市）



⑫ 青の洞門（本耶馬溪）（中津市）



⑬ 宇佐神宮（宇佐市）



⑭ 田染庄（宇佐市）

中世社会は荘園、公領が主体であり、当地は宇佐八幡宮が支配する地域で、大家郷、勇山庄等が見受けられ、多数の荘園を同八幡宮が所有していた。今では国東半島にある田染荘が残っており、歴史遺産としても、景観的にも貴重な有形資源で、人気の場所である。

戦国時代には当地は、豊前国の守護職の大内氏の勢力下にあった。当時は豊後、筑後の守護職である大友氏と大内氏との抗争がみられた。その後、大友氏が1559（永禄2）年に豊前、筑前の守護職になり、中国地方の雄である毛利氏との覇権争いが続いていたが、豊臣秀吉の九州征伐のおり、1587（天正15）年に黒田官兵衛孝高が秀吉の命により豊前六郡（京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐）を治めるべく馬ヶ岳城に入城する。ただ、戦国時代から国人であつた高橋氏は日向へ、宇都宮氏は伊予国に移ることを命ぜられるが、領民に慕われていた宇都宮氏は反乱を起こして抵抗する。やがて和睦後、宇都宮鎮房は誘殺され平定される。その後、黒田官兵衛孝高は海運に有利な山国川の河口に移り、中津城を築城する。1600（慶長5）年頃に中津の城下町が完成す

る。この年に徳川家康の命により筑前国（福岡市）に移る。続いて城主は細川氏、小笠原氏、1717年に奥平氏が入城し、明治維新まで存続する。

廃藩置県後は中津県から小倉県、福岡県になり、1876（明治9）年に大分県に編入され、今日に至っている。中津市で有名なのは近世末から明治にかけて中津藩出身の啓蒙学者で教育者である福沢諭吉の存在であり、居宅跡⑪が保存されている。また、中津藩の藩医で「解体新書」を刊行した前野良沢等や、福沢諭吉と共に和蘭辞書を著した奥平昌高らの著名人も中津藩である。

道路体系では大分方面への国道10号と県道663号線、日田市方面への国道212号、院内方面へ国道500号、吉富町から豊後高田市へ向かう主要地方道の中津高田線23号および大分方面への東九州自動車道がある。国道212号沿いの曾木から国道500号に入る所にある青の洞門⑫の近傍に道の駅の「耶馬トピア」があり、耶馬溪等の観光地巡りの休憩地点となっている。さらに、国道212号を日田市方面へ進むと奥耶馬溪付近に道の駅「やまくに」がある。

本街道の終着点になる**宇佐市**の歴史的な経緯は律令国家体制下において、京都・築上地域と同じく、仏教の鎮護国家の思想は共通する。宇佐八幡宮^⑨の近傍にある弥勒寺（廃寺）は準官寺の性格が強く弥勒菩薩が安置され、741〜743年に金堂、講堂、三重塔が建てられた。法鏡寺（廃寺）や虚空蔵寺（廃寺）は法隆寺式伽藍配置を備えた白鳳寺院の建築様式を持つ九州一の仏教拠点である。

中世においては、佐田氏、赤尾氏、麻生氏、時枝氏、中島氏の小規模な勢力が群雄割拠する情勢であった。荘園は江島別荘、平田別荘、深水荘、安心院庄等が挙げられ、近傍には豊後国領ではあるが、田染荘^⑩があり、中世の面影を今に残している。

戦国時代は、中津市と同様に豊前国の守護職の大内氏の支配下に入り、その後、大内氏と豊後国の守護職の大友氏との政争や毛利氏との抗争を経て、前述したように豊臣秀吉の九州征伐で、宇佐郡も黒田官兵衛孝高に給付される。

近世は、天領、中津藩領、島原藩領の飛地、宇佐八幡宮領が混在する状態である。明治維新後の近代においては廃藩置県後に中津県、小倉県を経て、大分県に編入される。

道路体系では、国道10号が基軸となる。豊後高田市への主要地方道豊後高田安岐線34号、同方面への国道213号、院内町や玖珠町方面に国道387号、宇佐より安心院町方面へ国道500号、その両国道が交差する院内町に道の駅「いんない」がある。中津市と宇佐市を横断的に結ぶ主要地方道の宇佐本耶馬溪線の44号が通り、本地域の高速自動車国道の東九州自動車道は椎田道路の椎田南ICより宇佐までは平成27年3月に開通し、宇佐より速見JCTまでは宇佐別府道路が既に供用している状態である。

以上のように本街道が通る沿線地域は、自然、歴史、風土、文化の各資源に恵まれており、まさに現代人のロマンを駆り立てる夢を持つ。

前述しているように福岡県から大分県の二つの県に跨り、それぞれの生活文化を有する地域を通り、77kmに及ぶ行程であるので、本ルートを北九州地区、京都・築上地区、中津・宇佐地区の3地区に分け、以下に、各区間の特徴を詳述する。

3 歴史性および地理的特性からみたロマン街道の3区間分割の視点

①北九州地区割の視点

北九州地区の地域は、律令国家体制下では豊前国に属し、近世では本領域に相当する企救郡を小倉藩が支配していたが、1871年の廃藩置県により小倉県に、その後1876年の府県合併により福岡県に所属する。また、1889年の町制施行により小倉町に、さらに、1900年の市制施行により小倉町から小倉市に、続いて1963（昭和38）年の五市合併後は北九州市小倉区としてスタートし、1973年の関門架橋の開

通後の翌年に小倉北区と小倉南区に分かれる。このような行政の地域割りから考えて、本地区は次の地区である京都・築上地区とは行政区画割りの歴史的経緯、また、当地域は、後背地の筑豊の石炭を背景に近代日本の産業化の基礎を構築しており、それらは平成27年に産業近代化の世界遺産に登録されている。また、近代の当初、旅団司令部が設置され、軍都として、さらに、戦後は、高度経済成長の牽引としての北九州工業地帯の形成等に伴う都市化や生活文化、風土も他地区とは相違するであろうとの観点から区分している。ただし、本風景街道の視点で門司区、小倉北区は関連部分の記述に留める。

②京都・築上地区割の視点

京都・築上地区は前述したように律令国家体制下の豊前国は京都郡・諫山、本山、刈田、高来の4郷、仲津郡（嵯見、葛見、城井、狭度、高屋、中臣、仲津、高家の8郷）、築城郡（綾幡、桑田、大野、梶木の4郷）、上毛郡（山田、炊江、多布、上身の4郷）、下毛郡（次の区間に含まれる）が属し、他に、企救郡（前掲：北九州地区）、田河郡（本風景街道に含まれない）、宇佐郡（次の区間に含まれる）に分かれている。この豊前国には現在のみやこ町に豊前国府が、近くに国分寺、国分尼寺、上毛町に大ノ瀬官衙（郡役所跡）が設置され、当時の地方行政や学問の中心地である。近世になって豊前国は小倉藩（小笠原藩・小笠原忠真）と小笠原長次の中津藩（後に奥平に）、宇佐郡は松平重直に分割される。また、明治維新後の行政割等からみても郷土の歴史、文化、風土からみると、この地域は一体化しており、それらを考慮してこの地区とする。

③中津・宇佐地区割の視点

律令国家体制下で中津は豊前国の下毛郡（山国、大家、麻生、野仲、諫山、穴石、小楠の7郷）に、宇佐は豊前国の宇佐郡（野麻、酒井、葛原、封戸、向野、廣山、垣田、高屋、深見、辛島の10郷）に属し、下毛郡に郡役所の長者屋敷跡も残存することからも、上毛郡との行政の範囲も異にしていたことが分かる。中世でも引き続き同様な領有域である。

このような経緯と、また、地理的に見ても大きな河川の山国川を境にして前者と区分されることから考えても、このような地区の分割としている。

二 大都市にある北九州地区間

1 工業都市から環境都市、アジアの技術都市へ

今日の北九州市の成立は門司市、小倉市、八幡市、若松市、戸畑市の五市について、当時の都市理論にある「多核都市論」に基づきながら1963年に五市合併を成し遂げ百万都市として登場する。本市が工業都市としての歩みは1901（明治34）年に八幡村に建設された官営八幡製鉄所をスタートとし、日本の四大工業都市の一つにまで発展し、特に戦後は我が国の復興期から高度経済成長期を支え続けてきた。しかし、その反面、環境問題が顕在化した後、その後、公害克服を成し遂げ、身近なところでは市民レベルの仕組みづくり等の幅広い活動を通じて資源循環型社会を推進し、世界環境都市を目指している。また、環境、消防、上下水道等の技術分野や高齢社会に密着した社会技術に関する協力や交流がアジアとの間で見られる。

まちづくりの方では、中核都市に相応しい景観にも配慮されており、木立の中を歩いて楽しめる歩道空間②が整備されている。

都市基盤である広域交通体系では、本州の下関と九州の門司を結ぶ関門国道トンネル（延長3461m）が1958（昭和33）年に、同時に海底を通る歩行者専用歩道（延長780m…自転車、原付可）が下関を起点に国道9号と接続し、門司を終点とする。また、中国自動車道の終点と九州縦貫自動車道の起点間に高速自動車国道の関門自動車道（関門橋）が1973（昭和48）年に高速交通ネットワークの一環として開通する。域内の道路では五市の一体化、産業経済、市民生活等を考慮して若戸大橋（延長776m）



② 都心の町歩き空間（北九州市小倉北区）

が1962（昭和37）年に若松区と戸畑区間に開通している。さらに、その後の交通需要の増大等から50年後の2012（平成24）年に同地域を繋ぐ新若戸道路（2.1km）は沈埋工法による海底トンネルで結ばれ、円滑な交通流動への貢献が見られる。

次に、1985（昭和60）年に都市型の高速鉄道である都市モノレール②が小倉都心（企救丘）間に開通し、現在ではJR小倉駅に接続（8.8km）して大規模な徳力団地を経由して都心と結んでおり、その始点は本街道の起点の近くに位置している。

2 みどころガイド

小倉北区では八坂神社の夏祭りに登場する祇園祭りは7月の祭りの時期と8月に開催される百万石祭りで見ることができ、北九州市庁舎と小倉城周辺にある勝山公園が主会場となる。また、その一角に中央図書館もあり、普段は市民の散歩コースや安らぎや憩いの場として市民に楽しまれており、直ぐ近くに再開発された複合商業施設がある。その中にファッション系のお店やレストラン街も見られ、本市民を中心に多くの利用客で賑わっている。さらに、その一角に都市型大学の小倉キャンパスが立置している。他の商業施設としてはJR小倉駅周辺でみるとデパート、従来型の商店街である魚町銀天街、京町銀天街、且過市場等があり、市民や旅行者の人気のスポットである。本区は行政等の管理機能と商業機能が主たる用途であるので、各施設とも多くの集客力を持っている。

他は、本街道から外れるが、近接地区として、ついでに回遊する意味で門司地区を概略紹介すれば、次の通りである。すなわち、門司港に隣接する下関市に劍豪宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の場の厳流島船島③がある。また、1919（大正3）年にドイツ人技師のヘルマン・ルムシュッテル監修による九州最古のネオ・ルネッサンス風の木造建築で鹿児島本線の起点であるJR門司港駅④（鉄道駅では初めての国指定の重要文化財）周辺に残る戦前に外国貿易で栄えた時代の商社や旧門司税関、アインシュタイン博士が泊まった部屋を保存している旧三井倶楽部の建築物等の施設を大正レトロ調に整備した観光スポットの門司港レトロが見所である。このレトロ地区は国土交通省の都市景観100選にも選ばれており、都市美としての代表的な場所であり、環境都市を標榜する北九州市の特徴の一つでもある。

歴史的資源としては奈良時代の和気清麻呂に縁のある足立山麓に足立山妙見宮が鎮座している。それに由来して清麻呂の嗣子の真綱は宇佐八幡宮への勅使の帰途、八幡神への感謝を込め、八幡神社を奉ったのが小倉南区の安部山公園付近に位置する葛原八幡宮⑤である。



②③ 巖流島（船島）（下関市）



②② 都市モノレール（小倉ターミナル）（北九州市小倉北区）

表2 情報案内所(小倉北区と小倉南区)と飲食と宿泊施設(小倉北区)			
グルメ	住所	電話	
一椿グルメレストラン	北九州市小倉北区鍛冶町1-8	093-521-9141	
あっさりうどん	北九州市小倉北区堺町1-5-22	093-521-5545	
お料理琢磨	北九州市小倉北区鍛冶町1-3-4	093-531-5186	
地域	情報案内所	住所	電話
北九州市	北九州市観光協会	北九州市小倉北区浅野3-8-1	093-541-4151
	観光情報コーナー	同観光協会内	093-541-4189
宿泊施設	住所	電話	
JR九州ホテル小倉	北九州市小倉北区浅野1-3	093-522-8800	
ステーションホテル小倉	北九州市小倉北区浅野1-1	093-521-5031	
あさのホテル	北九州市小倉北区浅野2-9	093-521-3366	
ブルーウェーブイン小倉	北九州市小倉北区浅野2-14	093-511-5454	
ビジネスホテルYANAGI	北九州市小倉北区浅野2-12	093-522-1011	
小倉リーセントホテル	北九州市小倉北区大門1-1	093-581-5673	
小倉ベイホテル第1	北九州市小倉北区浅野2-17	093-551-8282	
アーバンホテルかじまち	北九州市小倉北区鍛冶町1-5	093-551-8881	

表1 主な名所・旧跡と商業施設			
地域	名所・旧跡・商業施設	住所	
小倉北区	小倉城	北九州市小倉北区城内2	
	勝山公園	北九州市小倉北区城内2	
	中央図書館	北九州市小倉北区城内4	
	森 鷗外旧居	北九州市小倉北区鍛冶町1-7-2	
	杉田 久女句碑	北九州市小倉北区堺町1-7 堺町公園	
	松本清張記念館	北九州市小倉北区城内2	
	足立山妙見宮	北九州市小倉北区妙見町17-2	
下関市	巖流島	山口県下関市彦島字船島	
小倉北区	商業施設		
	リバーウォーク	北九州市小倉北区室町1	
	魚町銀天街	北九州市小倉北区魚町1	
	京町銀天街	北九州市小倉北区京町2	
	旦過市場	北九州市小倉北区魚町5	
門司区	門司港レトロ		
	門司港レトロ倶楽部 (インフォメーション センター)：旧門司税 関等を含む	北九州市門司区港町9-11	

表3 主な旧跡・公園・特産品（小倉南区）	
主な史跡・公園等	住所
葛原神社	北九州市小倉南区葛原2
安部山公園	北九州市小倉南区葛原2
散策	住所
平尾台(天然記念物の平原)	北九州市小倉南区平尾台
鱒淵公園（ダム含む）	北九州市小倉南区頂吉
道原サイクリングセンター(ロードを含む)	北九州市小倉南区道原
眼鏡橋	北九州市小倉南区春吉
特産品	住所
合馬のたけのこ	北九州市小倉南区合馬1



㉔ 葛原八幡宮（北九州市小倉南区）



㉕ JR門司港駅（北九州市門司区）

三 周防灘に望む京都・築上区間

1 古代の交流を象徴する官道

古代の交通路では前述した官道の西海道東路、西海道豊前路等があり、中央と太宰府および地方はそれらの交通ネットワークで構成されており、そこには駅が30里（約16km）毎に設けられ、駅馬、伝馬が用意されている。それらは国家の中央と地方行政との情報伝達の役割を持つ。駅路には大路（山陽道、太宰府路の一部）は二十疋、中路（東海、東山道）は十疋、小路（その他の諸路）は五疋に分けられており、太宰府に通じる一部を除き本官道では駅馬五疋と推察される。駅には駅田が置かれて、その収益を運営に当てるシステムからして、自主自立型の側面が見られる。海路についての九州側の港として利用されたのが、前述した小波瀬川の流域の葛野（くさの、現行橋市の草野）津で瀬戸内海を通して中央政権との玄関口になっている。

2 仏教文化の匂い漂う地域

これらの地域は鎮護国家の使命を帯びた仏教文化の影響を色濃く残しており、例えば、荻田町の片島の平泉寺の薬師堂に一木造りの地藏菩薩像、薬師如来立像が残っている。前述した棒市廃寺の伽藍配置や出土古瓦は平城系の軒丸瓦や韓半島系の偏行唐草文軒平瓦等にみられるように韓半島系と畿内系が混在しているのも興味深い。前述したように寺院内の造りの配置として四天王寺式伽藍配置、法起寺式伽藍配置および法隆寺式伽藍配置は奈良時代の都にある官寺等と同じ様式を要しており、この点は中央と強い仏教文化の交流があったことを如実に示している。

なお、同町には与原の国道10号沿いの低丘陵上に5世紀後半頃の北部九州で屈指の規模を誇る国指定史跡の前方後円墳（全長約119m）の御所山古墳㉖が、また、近傍に九州最古の前方後円墳である石塚山古墳（国指定史跡・全長約120m）がある。この石塚山古墳からは、国指定で重要文化財の三角縁神獣鏡が出土している。これらのことから古墳時代に、この地域にそれ相應の勢力を持つ人物が支配していたと言われている。他に、仏教と直接的な関係はないが、宇原神社の荻田山笠㉗は県指定の無形民俗文化財で毎年10月第1日曜日に行われる。

一方、英彦山（霊仙寺・添田町）の豊前坊を中心に豊前六峰と呼ばれる山岳寺院があり、

その一角を占めていたのが求菩提山（護国寺…豊前市）、松尾山（医王寺…上毛町）、普智山（等覚寺…荻田町）である。他に、松原山（正平寺…中津市）、福智山（雨宝寺…直方市）、蔵持山（宝仙寺…みやこ町）が属しており、このように古代、中世は山岳宗教が盛んであった。その名残として「豊前修験道」の姿を留めている。その祭事の一つとして、約千年も伝わる山伏の祭典の「等覚寺の松会」は国の重要無形民俗文化財に指定されており、今に残る貴重なお祭りである。

他に、莊園時代には豊前国は宇佐八幡宮弥勒寺領と太宰府安楽寺領でほぼ分け合った形になっている。藤原広嗣の乱後、荻田港の入り口の標高128mの小高い山に築かれた山城の松山城に神田光員が入城し、その後、4武将を経て大内義弘が豊前国の守護を勤め、守護代の杉氏が在城し、のち細川忠興が豊前に入国し、その後、廃城となったが、周防灘が一望でき、見所の一つである。

みやこ町には律令国家の地方統治の一つである豊前国府およびそれと対を成す豊前国分寺があり、規模は南北220m、東西160mと大規模で、その壮大さから、隆盛を極めたことが分かる。豊前国分尼寺も存在していたが、その規模は不明である。他に、寺院として木原廃寺等が造寺されている。



②⑥ 御所山古墳（荻田町）



②⑦ 荻田山笠（荻田町）

3 産業化への道

近代の明治に入ると近代化の礎として鉄道敷設が行われるようになり、1872（明治5）年に新橋〜横浜間が開通する。時を待たず1889（明治22）年に東京〜神戸間606kmが、九州では同じ明治22年に博多〜千歳川間が最初に開通し、京都・築上区間では1895（明治28）年に小倉〜行事間が開設され、途中の駅として城野、荻田駅が誕生している。ちなみに、1905（明治38）年末には全国約7700kmが敷設され、現在の延長距離と大きな遜色がないのに感心させられる。さらに、日豊本線は1923（大正12）年に全線開通する。

港湾については、1951（昭和26）年に荻田港が重要港湾に指定される。空港では、新北九州空港が2006（平成18）年に2500mの滑走路を持つ第2種空港として開港される。このような社会基盤が整備されてきている経緯と共に産業化に向けての動向を見てみる。

近世から荻田地域の遠浅の海岸を利用しての製塩が行われており、1903（明治36）年の大日本塩業全書の資料では荻田村と小波瀬村を合わせた生産高は福岡県の40%を占めていた。その後、第1次世界大戦（1914〜1918年）の影響で好景気になり、1916（大正5）年に採掘場が開設され、1918（大正7）年に豊国セメントが建設するに至り、ここに臨海工業地帯の趣りをみることが出来る。そして、1938（昭和13）年に荻田港修築計画が閣議決定され工業都市の礎が形成される。時を経て九州地方における高度経済成長のベースとなるエネルギー分野で1956（昭和31）年に発電所の発電が開始されている。1975（昭和50）年に自動車工場が操業したのを皮切りに、1980年代から2000年代にかけて各の工場が立地するに至って、名実ともに工業都市としての町となる⑥。これら一連の工業化へのステップと前後するが、荻田町の新津地区等に工業教育分野である大学の充実等があり、その意義は技術者の人材育成と立地企業群との実務における協同を見据えたものと推察される。

また、高速交通ネットワークでは、東九州自動車道の荻田北九州空港インターチェンジが2006（平成18）年に新北九州空港の開港と同時に竣工し、さらに、2014（平成26）年は行橋インターチェンジまで延伸した。本高速道路は、2016（平成28）年に宮崎までの全線が開通予定である。

このように産業の立地条件および住民のモビリティ等を考えた交通アクセスは非常に良好であり、産業関係では県内で卓越した工業製品出荷額を誇っている。

4. みどころガイド

既に述べたが歴史文化でみると**荇田町**では、山岳宗教における山伏の修験場があった等覚寺での山伏の祭典である松会③は、国指定の重要無形民俗文化財で毎年4月の第3日曜日に白山多賀神社で行われる。他は、毎年2月第2日曜日に行われる国道10号沿いにある前方後円墳の御所山古墳②(国指定の史跡)にある白庭神社で無病息災を祈る「福焼き」で、通常「どんど焼き」と言われ町民に親しまれている。また、毎年10月に行われる県指定無形民俗文化財で宇原神社の秋祭りで行われる荇田山笠②がある。景観的には、荇田港の入り口にある小高い山の松山城は、前述したように藤原広嗣の乱後に築かれたとされ、その後、940(天慶3)年に神田光員が入城した中世の城跡で、周防灘が一望でき、非常に眺望がよい。今は公園となっている。

自然資源では平尾台の一角にある国指定天然記念物の青龍窟がある。また、北九州国定公園内にある町指定天然記念物の広谷湿原②、ここにはモウセンゴケ、サギソウ、トキソウ等の植物が自生している。

公共基盤施設では平成18年に北九州空港が完成し、重要港湾の荇田港と共に、空と海の玄関口と成っており、空港のターミナルでは各お店が郷土の特産品②(表5に記載)を販売しており、季節によってイベントも開催している。

また、前述のように東九州自動車道の荇田北九州空港ICが立地されており、航空旅客や貨物、海運貨物等の各目的地への交通アクセスは非常に良い。

行橋市では、小倉藩主を迎えた豪商の玉江家の屋敷の飴屋の門③が有名で、行橋市の文化財として指定されており、近



② 広谷湿原(荇田町)

世中期以降の当地における産業面での繁栄の名残が感じられる。その飴屋の飴は有志により復活し、上述した北九州空港のターミナル内店舗で販売されている。他に、1914(大正3)年にレンガ造り2階建ての洋風建築として辰野・片岡事務所の設計監理で立てられた旧百三十銀行行橋支店跡がJR行橋駅近傍にあり、国指定の重要文化財である。みやこ町との境界にある馬ヶ岳(標高216m)に黒田官兵衛孝高の九州最初の居城である馬ヶ岳城があり、交通アクセスでは平成筑豊鉄道田川線の豊津駅で下車し大谷交差点より登山口に至る。その近傍に前述したように白村江の戦い以後の緊迫した東アジア情勢を反映し、7世紀に大和朝廷時代において防衛のため築かれた御所ヶ谷神籠石が見られる。

学術教育面では幕末の儒学者の漢詩人でもある村上仏山の私塾である水哉園が挙げられる。ここで学んだ末松謙澄は後、明治時代において政界で活躍した一人である。

表4 主な名所・旧跡等

地域	名所・史跡・公園	住所
荇田	農村景観一〇〇選の等覚寺の棚田	荇田町等覚寺
	白山多賀神社(等覚寺の松会)	荇田町本谷
	青龍窟	荇田町等覚寺
	松山城跡(松山城自然歩道を含む)	荇田町松山
	御所山古墳(白庭神社)	荇田町富久町1
	石塚山古墳(九州最古)	荇田町富久町1
	総合保健福祉センター(パンジープラザ)	荇田町幸町6-91
	日産自動車(株)九州工場	荇田町新浜町1-3
	トヨタ自動車九州(株)荇田工場	荇田町鳥越町9-2
	九州電力(株)荇田発電所	荇田町長浜町1-1
	三菱マテリアル(株)九州工場	荇田町松原町12
	(株)宇部興産荇田セメント工場	荇田町長浜町7
	麻生ラファージュセメント(株)荇田工場	荇田町長浜町10
	日立金属(株)九州工場	荇田町長浜町35
行橋	北九州空港	荇田町空港南町
	北九州空港連絡橋	荇田町空港南町
	玉江家飴屋の門	行橋市行事
	今井津須佐神社	行橋市元永
	正八幡宮	行橋市神田町8-1
	御所ヶ谷神籠石	行橋市大谷
	馬ヶ岳城跡	行橋市大谷
	旧百三十銀行 行橋支店	行橋市大橋3-7-14
	水哉園(私塾)	行橋市上稗田553

みやこ町には律令国家時代の豊前国府跡と豊前国分寺③が有名で、前者の規模は南北265m、東西490mと大規模で、現在の国府跡は公園となっている。それらは前述しているように国道496号沿線に位置している。近世に入った江戸時代後期の183



③ 玉江家の飴屋の門（行橋市）



② 豊前一粒かき（荻田町）

表5 特産品

地域	品名	取扱い店	住所	電話
荻田	一粒かき	荻田町漁業協同組合等	荻田町幸町21	093-436-3121
	松会漬・みそ	等覚寺特産グループ	荻田町山口2558	0930-22-8060
	美夜古紫(紫芋焼酎)	北九州空港内「空の丘」等	荻田町京町1-11-6	093-473-9764
	かんだ紫芋ねりちーず	花楓月(北九州空港内等)	荻田町京町1-11-6	093-436-1824
行橋	行事屋のみずあめ「美壽飴」	北九州空港内等(総合案内所)	荻田町京町1-11-6	093-475-4195
	豊前海一粒かき	行橋市簗島漁業共同組合等	行橋市簗島470-13	0930-23-1040
	いちじくと博多蓬菜ジャム	J A福岡みやこ営農経済センター等	行橋市西宮市5-11-1	0930-24-2611

表6 情報案内所と宿泊施設

地域	情報案内所	住所	電話
荻田	荻田町観光協会	荻田町富久町1-19-1	093-434-5560
行橋	行橋市観光協会	行橋市西宮市2-1-1	0930-25-0086
地域	宿泊施設	住所	電話
荻田	ホテルルートイン	荻田町神田町1-8-1	093-425-3711
	アリストンイン北九州空港	荻田町幸町12-5	093-435-0600
	スカイホテル荻田	荻田町荻田3787-61	093-475-8844
	ベッセルホテル荻田北九州空港	荻田町磯浜町1-5-9	093-435-2525
	ビジネスホテル千成	荻田町磯浜1-3-5	093-436-4180
	ビジネスホテルゆき	荻田町神田町1-10-1	093-436-0170
	荻田旅館	荻田町神田町1-6	093-436-0253
	榎本旅館	荻田町港町8-3	093-434-1430
	ビジネスホテルファーストイン	荻田町磯浜町1-4-1	093-435-3311
行橋	東横イン北九州空港	北九州市小倉南区空港北町2-4	093-472-1042
	ホテルルートイン行橋	行橋市中央3-5	0930-26-8711
	アーバンホテル(福岡行橋駅前)	荻田町幸町12-5	0930-25-2800
	ビジネスホテルゆくはし	行橋市西宮市2-20	0930-22-1333
	ビジネスホテルフジ	行橋市大橋3-11	0930-22-6473
	京都ホテル(福岡県)	行橋市宮市町9-18	0930-23-1800

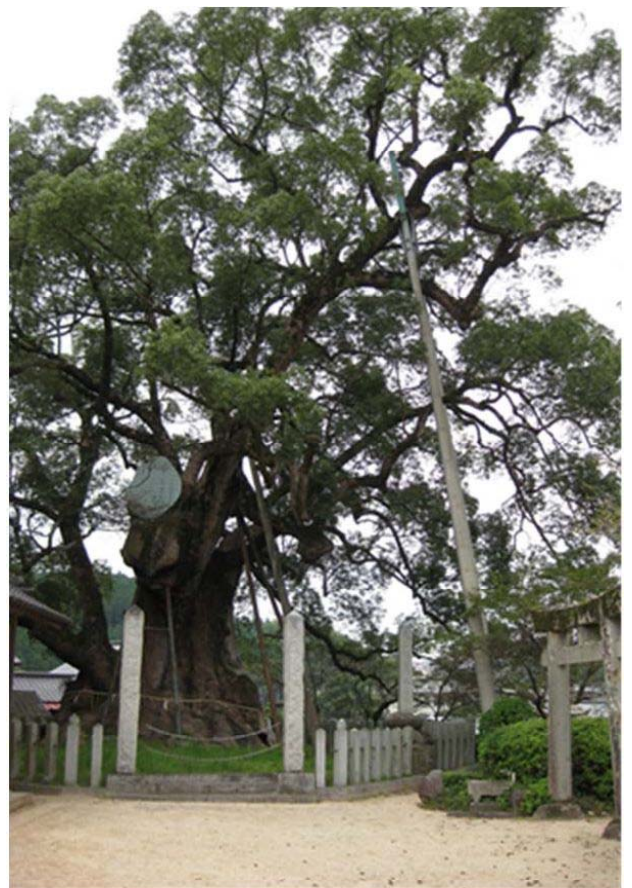
9（天保10）年に建築された庄屋の建物で入母屋造り茅葺の民家の永沼家は国指定の重要文化財で、国道496号を築師峠に向かう沿線にある。他の名所・旧跡等は旧小倉藩の藩校の「育徳館」の藩校時代の門である「黒門」と1902（明治35）年創建の県指定文化財で旧制の豊津中学校の講堂である「思永館」で、現在、県立育徳館中学校・高等学校内に現存するものが挙げられる。次に、平成筑豊鉄道の旧田川線にあり、1895（明治28）年に完成した九州最古の鉄道トンネルの第2石坂トンネルは赤村との境界にあり、国の有形文化財となっている。

地域特産物については交通条件に適う場所に地元の新鮮な農産物等を販売している物産館は「よつてこ四季屋館」が主要地方道行橋添田線34号沿いに、「国府の郷」が主要地方道椎田勝山線58号沿いに、「しやくなげの里」が国道496号沿いにそれぞれ出店し、地元での消費に力点を置いている。

築上町の名所・旧跡としては、菅原道真公が椎田の浜に漂着した時に地元の人々が船の綱を引いたとの由来により綱敷天満宮が造営されている。国道10号沿線にある金富神



③① 豊前国国分寺（みやこ町）



③② 本庄の大楠（築上町）

社の歴史は古く聖武天皇の724（神亀1）年に建立されている。県道238号の豊津椎田線沿線にある船迫窯跡は古墳時代の須恵器、奈良時代には豊前国分寺の屋根瓦を作っていたという国指定の遺跡である。他に、県道237号寒田下別府線沿線にある国指定の天然記念物の本庄の大楠③②は日本第5位の巨樹である。また、当該地区は神楽の多さで有名であり、同沿線では椎田道路の築城IC近傍にある八幡神社の赤幡神楽、本庄の大楠近くの岩戸見神社の岩戸楽・伝法寺神楽、さらに、鉾立峠方面に向って進むと天神山の大しだれ桜があり、その先の貴船神社の櫟原（いちきばる）神楽、県道233号沿線にある葛城神社妙見宮の岩丸神楽、県道231号の高田山川線沿線にある小原正八幡宮には小原神楽がある。それぞれの奉納の時期には伝統ある多くの神楽がみられ楽しみの一つである。それぞれ県や町の無形民俗文化財に指定されている。

他に見る所は、寒田下別府線237号と深野犀川線241号の交差点近傍にある旧蔵内邸は県指定の文化財で炭坑王の蔵内次郎作・保房親子の邸宅で伝統的な書院づくりで敷地2200坪の広さである。

行楽地としては、前述しているピラ・バラディは県道求菩提椎田線234号で国見山方面に向かった沿線に、寒田下別府線237号で鉾立峠方面へ向かう沿線に牧ノ原キャンプ場、JR日豊線で椎田駅を過ぎ中津方面に向かった沿線にアグリパークは位置する。他に、岩丸川と城井川の上流に宇都宮氏の城井ノ上城址があり、その下流の河口に沿って3月下旬から開花する桜の桜土手は見物客が多数訪れる場所である③③。

特産品では豊前海一粒かき、豊前本ガニ、いちじく（とよみつひめ）、隊員食堂カレシ、菊、スイートコーン、いちご等がある。

豊前市では前述したように中津街道における宿場町であった松江宿跡、八屋宿跡があり、当時の宿場を連想することができる。椎田道路の延長線上と国道10号が交わる当たりに道の駅「豊前おこしかけ」⑨があり、その近傍に神功皇后の伝説がある豊前御腰掛がある。また、道路は豊前市四郎丸で山地側の国道10号と海側を通る県道113号に分岐する。山側の国道10号沿いに「勅使道」と呼ばれる道が豊前市大村0.8km、同市岸井から上毛町の大ノ瀬までの2.5kmに僅かに残っており、当時の面影を感じることができる。勅使道とは、四章で詳述しているように奈良時代に宇佐八幡宮が毘盧舎那仏の建立に尽力があり、国家レベルの八幡神になったことに由来し、天皇の即位の際や国家に異変がある時に奉告祈願のために朝廷より勅使が派遣されている。この勅使が通る道のことである。豊前国における勅使の通行ルートは本州から門司か今井津（行橋市）に着き、豊前市四郎丸、上毛町垂水、大分県中津市高瀬から宇佐に行く行程であった。先程の分岐点から約400年前に構築された中津街道と県道113号（旧国道10号）が海側を走っている。中津街道は関ヶ原の戦いで論功のあった細川忠興が中津城に入城し、後に、小倉城に移ったので、小倉と中津を最短経路で結ぶために四郎丸から杵川（豊前市）を経て小犬丸（吉富町）を抜け、山国川を渡り中津城下に至るものであった。

表 7 主な名所・旧跡等

地域	名所・史跡・公園	住所
みやこ	豊前国分寺	みやこ町国分280
	豊津国府跡	みやこ町国作450
	永沼家（庄屋：入母屋造り茅葺）	みやこ町犀川帆柱721
	思永館、黒門（育徳館中学・高等学校内） 第2石坂トンネル（九州最古の鉄道トンネル）	みやこ町豊津973 みやこ町川崎山
築上	メタセの杜物産館	築上町大字弓の師765
	本庄の大楠	築上町字本庄 大楠神社
	椎田宿場跡	築上町椎田
	綱敷天満宮	築上町鎮座
	金富神社（湊神楽）	築上町湊392-2
	小原正八幡神社（小原神楽）	築上町小原
	岩戸見神社（岩戸見神楽）	築上町伝法寺1339
	貴船神社（櫛神楽）	築上町上深野411
	城井ノ上城址	築上町寒田
	旧蔵内邸（県指定文化財）	築上町大字上深野396
	築上町文化会館 コマーレ	築上町椎田962-8
	ビバ・パーティ（公共の宿、保養所）	築上町大字極楽寺1―7
	船迫竊跡公園	築上町船迫1342-22
	アグリパーク	築上町湊
	牧の原キャンプ場	築上町寒田2005-3
	桜土手（城井川、岩丸川沿い）	築上町椎田
豊前	築上町児童館	築上町湊1280-1
	豊前おこしかけ（道の駅）	豊前市四郎丸1041-1
	大富神社	豊前市四郎丸
	豊前松江宿場跡	豊前市松江
	八屋宿場跡	豊前市八屋
	蔵春園（私塾）	豊前市大字薬師寺570
	天地山公園	豊前市大字吉木955
	求菩提山（資料館）	豊前市島井畑247
	求菩提温泉「ト仙の郷」	豊前市大字篠瀬57の2
	豊前温泉「天狗の湯」	豊前市八屋1725-1
吉富	畑冷泉	豊前市大字畑708
	八幡古表神社（神相撲）	吉富町小犬丸353-1
	田辺三菱製薬（株）事業所	吉富町小祝955
	鈴熊山公園	吉富町鈴熊
上毛	大ノ瀬宮衙遺跡	上毛町大ノ瀬字川原田284-3
	友枝瓦窯跡	上毛町土佐井1692-2
	穴ヶ葉山古墳	上毛町下唐2156外
	唐原山城跡（古代山城）	上毛町土佐井・下唐原・宇野
	松尾山（修験道跡）	上毛町西友枝
	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1
	さわやか市太平（農薬物直売所）	上毛町下唐原1261
	大池公園	上毛町下唐原2335-1
	ホテルの里	上毛町西友枝
	岩屋の滝	上毛町東上宇岩屋

吉富町は両側が山国川と佐井川に挟まれた河口に位置し、エリアの小さい田園地帯の一角に昭和15年から旧吉富製薬が創業しており、現在は田辺三菱製薬株式会社の事業

他を見ると、地方主要道犀川豊津線32号を鉢立峠に向う沿線に山岳宗教の修験道で有名な求菩提山^③がある。当時、宿坊が500坊あったと言われ、その国玉神社のお田植祭が3月29日に行われるのを始め、福岡県指定無形民俗文化財の伝統芸能である「豊前岩戸神楽」が毎年9月～12月に市内50箇所まで奉納される。他に、求菩提温泉「ト仙の郷」、求菩提山キャンプ場があり、教育の分野では漢字の恒遠醒窓の私塾である蔵春園が有名である。工学技術の面では岩屋村出身の矢頭良一が自動算盤を発明し、1903（明治36）年に専売特許の許可を取る。欧米の計算機より優れており、大いに産業面で貢献する。さらに、豊前温泉「天狗の湯」、畑冷泉、大河内傳次郎の生家等がある。食の方は、イチジク、三毛門南瓜、豊前茶、みかんのほるみ等が挙げられる。

所がある。生活の中に自然があるという環境から自然と共生をまちづくりの理念としており、JR吉富駅近傍にふくおか森林欲百選に選定されている鈴熊山公園があり、そこでは自然を謳歌できる遊歩道や、展望広場等が町民の憩いの場となっている。また、伝統芸能では八幡古表神社に伝わる神相撲は国の重要無形民俗文化財である。上毛町では修験道の松尾山は豊前六峰の一つで山岳寺院の医王寺の行事として天下泰平、五穀豊穡を祈るお田植え祭りが今に残り、福岡県の無形民俗文化財に指定されている。一章2で述べたように友枝川や東友枝川はホテルの群生地源氏ホテルの乱舞は6月上旬が見頃である。他に、上毛スマートインターチェンジの側にある大池公園ふれあ



③⑤ ほし柿ようかん（上毛町）



③③ 城井川沿いの桜公園（築上町）



③⑥ 川底柿（上毛町）



③④ 大池公園ふれあいの里（上毛町）

いの里③はログハウスの宿泊施設や多目的広場、遊歩道等の施設が整備されており、自然を満喫できる。また、九州自然歩道は、耶馬日田英彦山国定公園の中を西友枝の雁股山から大平山までの標高500～660mの高地沿いのルートで、この10kmほどを歩いてみると眺望は絶景である。

特産品ではタラの芽、ブルーベリー、アスパラガス、ほし柿ようかん③⑤、川底柿⑥、いちじく、桃等である。

表8 特産品				
地域	品名	取り扱い店	住所	電話
みやこ町	犀川米、犀川ゴボウ、柚子胡椒	物産館「よってこ四季犀館」	みやこ町犀川生立54-1	0930-42-3339
	アスパラガス、帆柱茶、なし	物産館「国府の郷」	みやこ町国作464-1	0930-33-6620
	地元の野菜、花等	物産館「しゃくなげの里」	みやこ町犀川帆柱	0930-43-5801
築上	豊前一粒かき	豊築漁業協同組合椎田支所	築上町湊1192-6	0930-56-0120
	菜の花油一番搾り・サラダ油	農業組合法人湊宮農組合	築上町湊1096-1	0930-56-0321
	スイートコーン	メタセの杜物産館	築上町大字弓の師765	0930-52-3828
	いちじく(とよみつひめ)	メタセの杜物産館	築上町大字弓の師765	0930-52-3828
	寒菊(生姜)	メタセの杜物産館	築上町大字弓の師765	0930-52-3828
	基地食堂カレー	メタセの杜物産館	築上町大字弓の師765	0930-52-3828
豊前	豊前本ガニ	豊築漁業協同組合	豊前市宇島76-31	0979-82-2620
	いちじく(とよみつひめ)	道の駅「豊前おこしかけ」	豊前市四郎丸1041-1	0979-84-0544
	豊前海一粒かき	道の駅「豊前おこしかけ」	豊前市宇島76-31	0979-83-2228
	棚田ゆず	豊築漁業協同組合	豊前市四郎丸1041-1	0979-84-0544
吉富	豊前ノリ	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077
上毛	タラの芽	さわやか市太平	上毛町下唐原1621	0979-72-3945
	川底柿	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077
	いちじく	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077
	とうふアイス	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077
	羊羹(生いす羊羹、ゆず羊羹)	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077
	豊築米	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大ノ瀬304-1	0979-84-7077

表9 情報案内所と宿泊施設		
情報案内所	住所	電話
みやこ町観光協会	みやこ町観光協会	0930-33-5771
築上町観光協会	築上町築城1096	0930-52-0001
豊前市観光協会	豊前市八屋2013-2	0979-83-2333
吉富町役場	吉富町広津226-1	0979-24-1122
上毛町役場	上毛町垂水1321-1	0979-72-3111
宿泊施設	住所	電話
安楽旅館	築上町東築城262	0930-52-0155
万寿来屋旅館	築上町椎田1654	0930-56-0160
築上館	豊前市大字八屋1665-1	0979-82-2021

四 自然と文化の宝庫の中津・宇佐地区間

1 往時を辿る

前述したように本区間の中心は宇佐で律令時代には虚空蔵寺等の白鳳寺院が建立され仏教文化の先進地域であり、同体制下の奈良時代の中期頃には東大寺式の弥勒寺が建立されるに至り、九州の仏教の一大中心地になる。これを示すように塔跡周辺より多数のセン仏が出土しており、倚坐独尊小形セン仏が有名である。さらに、宇佐八幡宮の国家レベルの神としての存在があった。それは東大寺の毘盧舎那仏の建立に貢献し、752年に毘盧舎那仏の開眼供養が行われる。それらの功績が称えられ、宇佐八幡宮は延暦年間に八幡大菩薩を冠し、託宣等を持つ神として中央に影響力を持つに至っている。まさに、神仏習合の象徴である。

また、所領でみると豊前国の大分県域は下毛郡と宇佐郡の全部が宇佐八幡宮に含まれており、豊後国では、宇佐八幡宮1400余町、国の支配する公田850町、太宰府領274町等である。宇佐八幡宮関係の所領は約40%、院領約15%、権門領20%、国衙領約21%等の占有率からみて、圧倒的な荘園を有している。まさに、11～12世紀頃は摂関家と結びついて膨大な所領が形成されるに至る。また、豊前国では宇佐郡、下毛郡に御封田がおかれ、前者には封戸郷、向野郷、高家郷、辛島郷、葛原郷が封郷され、これと安心院の二つから成り郡司が置かれていた。下毛郡では大家郷、野仲郷が封郷されている。豊後国で今日まで面影を残し、有名なのが国東半島の田染荘②で、現在も農村の風景が非常に良く残っている。他に、佐田荘、田原別府等の荘園がある。このように豊前国と豊後国で広範囲に及び宇佐八幡宮が支配していたことが窺える。

2 中世以降の領国形成から近世、近代そして現代

中世は豊前国の守護職で大内盛見が1403年に補任され、1416年に豊後国、筑後国の守護職に大友親著が補任されている。その後、大内氏と大友氏の攻防が続くが、文化面ではキリスト教と西欧文化を大友義鎮(宗麟)は積極的に取り入れる。その後、秀吉の九州平定後に豊前国の中津、宇佐、下毛等の6郡を黒田孝高に豊後国は、中川秀成に岡7万石、福原直高に臼杵6万石等のように再配分される。

近世において豊前国は小笠原小倉藩、中津は小笠原から奥平藩、豊後国は7藩に分かれる。近代に入り行政範囲は1876年に福岡県から下毛と宇佐2郡を大分県に編入する。下毛郡はやがて中津市として誕生する。大分県による殖産興業策により、養蚕試験



③⑦ 御沓橋 (宇佐市院内)

所の新設、1896 (明治29) 年に豊中製糸会社、大分紡績会社の大分工場の建設、基盤施設としての交通条件は、鉄道が1895 (明治28) 年に小倉―行橋間に続き、1897 (明治30) 年に小倉―宇佐市柳ヶ浦まで開通する。さらに日豊本線の全通は1923 (大正12) 年となる。

現代において中津、宇佐地域に関連する交通基盤をみると1964 (昭和39) 年に九州横断道路全線開通、以前の国道10号が1965 (昭和40) 年に一級、二級の区別をなくし、新たに国道10号として指定、1996 (平成8) 年には大分自動車道の全線の開通となる。

3 石橋の文化

日本は本来、木の橋が主体であるが、外国との窓口であった長崎に明の興福寺の僧の黙子如定が1634 (寛永11) 年に眼鏡橋を架設して以来、九州各地に伝播していく。九州内の架橋の数は大分県497、橋鹿児島県456橋、熊本県321橋、長崎県151橋、宮崎県117橋等が主だった「石橋群」で、大分県の石橋の架橋の数が顕著であ



③⑧ 荒瀬橋 (宇佐市院内)

ることが分かる。長崎県の石橋の石積みの特徴は平行布積みで、次に、熊本県に伝播され、後の名工として名高い種山石工3兄弟が1847年に霊台橋を架設する。石積みの特徴は乱れ積みで、径間は長く、拱矢比 (拱矢/径間) は小さい。

大分県は地形的に山間が多く、谷間に集落があり、集落間や地域間における交通等の生活のために架けている。大分県の石橋の特徴は二重巻 (円弧・荒瀬橋・御沓橋) と変形の二重巻 (三芯円) で目地を合わせた二段積みと目地をずらした二段積み、長短交互二段積み、円弧併用の二段積みである。国道10号の四日市交差点から宇佐ICを経て国道387号に入り、下恵良方面に進むと宇佐市院内町の御沓の谷間を通る恵良川に架かる石橋の御沓橋③⑦で長さ59.0m、石橋の高さ14.7m、橋幅4.55mで1925 (大正14) 年に完成、構造的にみると目地をずらした二段積みの橋である。さらに、上流側に架かる荒瀬橋③⑧は長さ47.4m、石橋の高さ18.3m、橋幅5.95mで1913 (大正2) 年に完成、構造的にみると目地をずらした布積みで、材料はいずれも入手し易い凝灰岩であり、県指定と後者は市指定の有形文化財となっている。一般的に有名で石橋の貴婦人としてよく紹介されているのは同じ院内町の恵良川下流の鳥居橋で長さ55.15m、石橋の高さ14.05m、橋幅4.35mで1916 (大正5) 年に完成の県指定の有形文化財で石工はいずれも松田新之介である。なお、前後するが、現存する石橋では1923 (大正12) 年に完成した青の洞門近傍で荒瀬堰の下流にある山国川水系の山国川に架かる長崎式石積の耶馬溪橋 (大石橋) の長さ116mが日本で

最長である。また、現代の吊橋として宇佐市の上坪田にある鷹栖観音（1300年前に僧法蓮により開基）と対岸を結ぶ132.5mの歩道専用の橋が架けられている。

4 みどころガイド

中津市の名所・旧跡としては黒田孝高（官兵衛）築城の中津城、海水を汲み上げ沸かしている汐湯、福沢諭吉旧居、中津藩の御典医を務めていた中津医学の祖の村上医家史料



④⑩ 深耶馬溪（一目八景）（中津市）



③⑨ 猿飛千壺峡（中津市）



④① 宇佐のマチュピチュ（宇佐市）

館、下毛郡の郡衙であった長者屋敷跡（8〜10世紀）、宇佐八幡宮と関わりの深い薦神社は承和年間（834〜848年）の創建といわれている歴史のある神社である。また、前述した黒田孝高（官兵衛）が前領主の宇都宮鎮房への謀略で、その家臣が戦った合元寺の赤壁等が良く知られており、それらは市街地にあり、集中的に見られる範囲である。離れたところでは県道664号線沿いの三光下田に三光コスモ園、前述した耶馬溪町の耶馬溪橋が挙げられる。

自然景観では国道212号を南に向かって行くと有名な耶馬溪と青の洞門があり、もつと日田方向に進んでゆくと耶馬溪ダムの側に耶馬溪アクアパークもある。青の洞門の近辺に羅漢寺があり、さらに、主要地方道森耶馬溪線28号を玖珠方面へ進むと奥耶馬溪の猿飛千壺峡③⑨、深耶馬溪の一目八景④⑩等が位置し、自然の素晴らしさが満喫できる。

食としてはハモ料理が有名で、別表のようなお店で食することができる。他に、本耶馬溪地そば、壱万円札せんべい等がある。

宇佐市で見るべき所は前述しているが、院内町にある石橋の鳥居橋、御香橋、荒瀬橋、国道10号沿線にある宇佐神宮、国道387号から望む「宇佐のマチュピチュ」（院内の西雅屋の景④①）は南米のペルーのマチュピチュ（空中都市）に似ていることで人気が高まっている。同じところに「樹齢1300年の大銀杏の木」があり、母乳が出ない人が触ると出るようになるとの言い伝えのある銀杏の木である。次に、院内町余谷の余川の支流である滝貞川の両岸にある「両合棚田」④②は棚田百選の一つである。同様に院内温泉から南に約1km程度行くと余川に懸かる「末広の滝」が雄大に広がる。

院内町南院内地区は国の特別天然記念物の「オオサンショウウオ（山椒魚）」④③の生息地で有名である。耶馬溪の一角にあり、県の天然記念物のツクシヤクナゲの群生地の一つで奇岩、奇峰で知られ九州百名山に選定された雄岳と雌岳からなる「鹿嵐山」④④は院内、安心院方面からは鋭く、玖珠方面からはなだらかに見える。耶馬溪方面へ向かう国道500号と杵築方面の387号が交差するあたりに道の駅「いんない」があり、いずれの目的地への中継地点として好位置にある。宇佐別府道路の院内ICから宇佐市と熊本県の湯前町を結ぶ国道387号で玖珠町方面に向かって、斉藤より主要地方道の耶馬溪院内線27号に入り、深耶馬方面に進むと院内町の別当に岳切溪谷④⑤が位置する。これは耶馬溪溶岩の一枚岩の上を清流が流れ、特に、夏には人気のスポットであり、耶馬日田英彦山国定公園内にある。他に、国道500号を東椎屋方面に向かって進むと安心院町の南畑にある自然動物園のアフリカン・サファリは115万70種類で、1300もの動物等の放し飼いをしている。最後に、宇佐市下庄にある双葉山記念館（大相撲界で不滅の69連勝を樹立）等は見るべき所である。

表10 主な名所・旧跡等			
地域	名所・史跡・公園	住所	
中津	福沢諭吉旧居	中津市留守居町586	
	中津城	中津市二ノ丁	
	長者屋敷跡（下毛郡の官衙(郡役所)正倉跡）	中津市永添2303	
	汐湯	中津市二ノ丁1278-1	
	三光コスモス園	中津市三光下田	
	村上医家資料館	中津市鷹匠町	
	薦神社	中津市大貞209	
	耶馬溪	中津市本耶馬溪町曾木	
	耶馬溪アクアパーク	中津市耶馬溪町山移2074	
	青の洞門	中津市本耶馬溪町曾木	
	羅漢寺	中津市本耶馬溪町跡田1501	
	一目八景（深耶馬溪）	中津市耶馬溪町深耶馬3152	
	猿飛線壺峡（奥耶馬溪）	中津市奥耶馬溪町	
	合元寺（赤壁寺）	中津市寺973	
	耶馬溪橋	中津市耶馬溪町	
宇佐	道の駅「耶馬トピア」	中津市本耶馬溪町曾木2193-1	
	道の駅「やまくに」	中津市山国町中摩358-4	
	宇佐神宮	宇佐市南宇佐	
	双葉山記念館	宇佐市下庄	
	荒瀬橋（市指定有形文化財）	宇佐市院内町副・大副	
	御杵橋（県指定有形文化財）	宇佐市院内町御杵	
	鳥居橋（県指定有形文化財）	宇佐市院内町香下	
	鷹栖観音（吊り橋を含む）	宇佐市上拝田	
	宇佐のマチュピチュ	宇佐市院内町西椎屋	
	樹齢1000年の大銀杏	宇佐市院内町西椎屋	
	両合の棚田	宇佐市院内町余谷	
	岳切溪谷（椎耶馬溪）	宇佐市院内町定別当	
	鹿嵐山（雄岳、雌岳）	宇佐市院内町楠野	
	末広の滝（余の滝）	宇佐市院内町原口	
	サンショウウオの生息地	宇佐市院内町南院内	
	アフリカンサファリー	宇佐市院内町南畑	
	道の駅「いんない」	宇佐市院内町副1381-2	



⑫ 両合の棚田（院内：宇佐市）



⑬ オオサンショウウオ（宇佐市教育委員会提供）



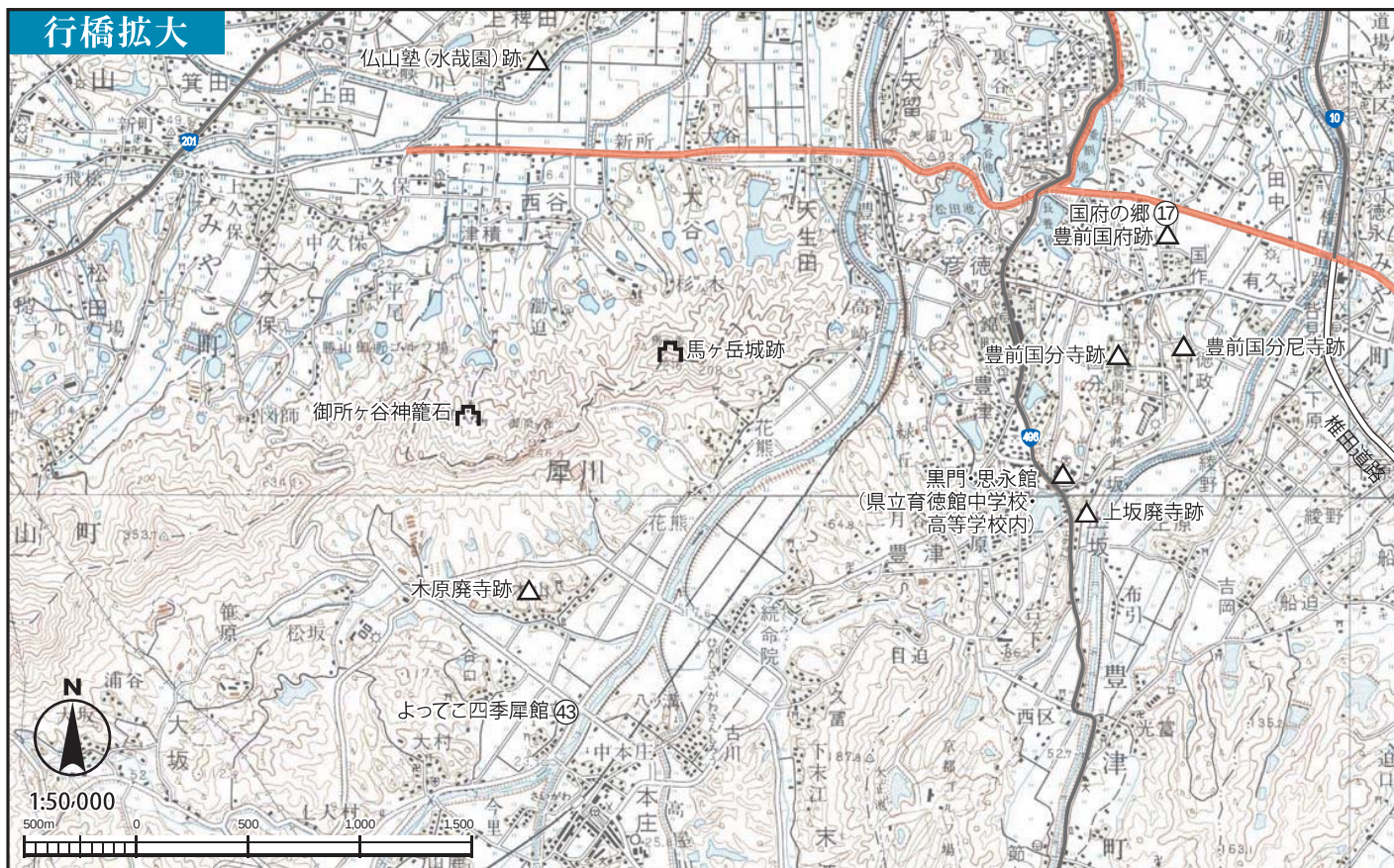
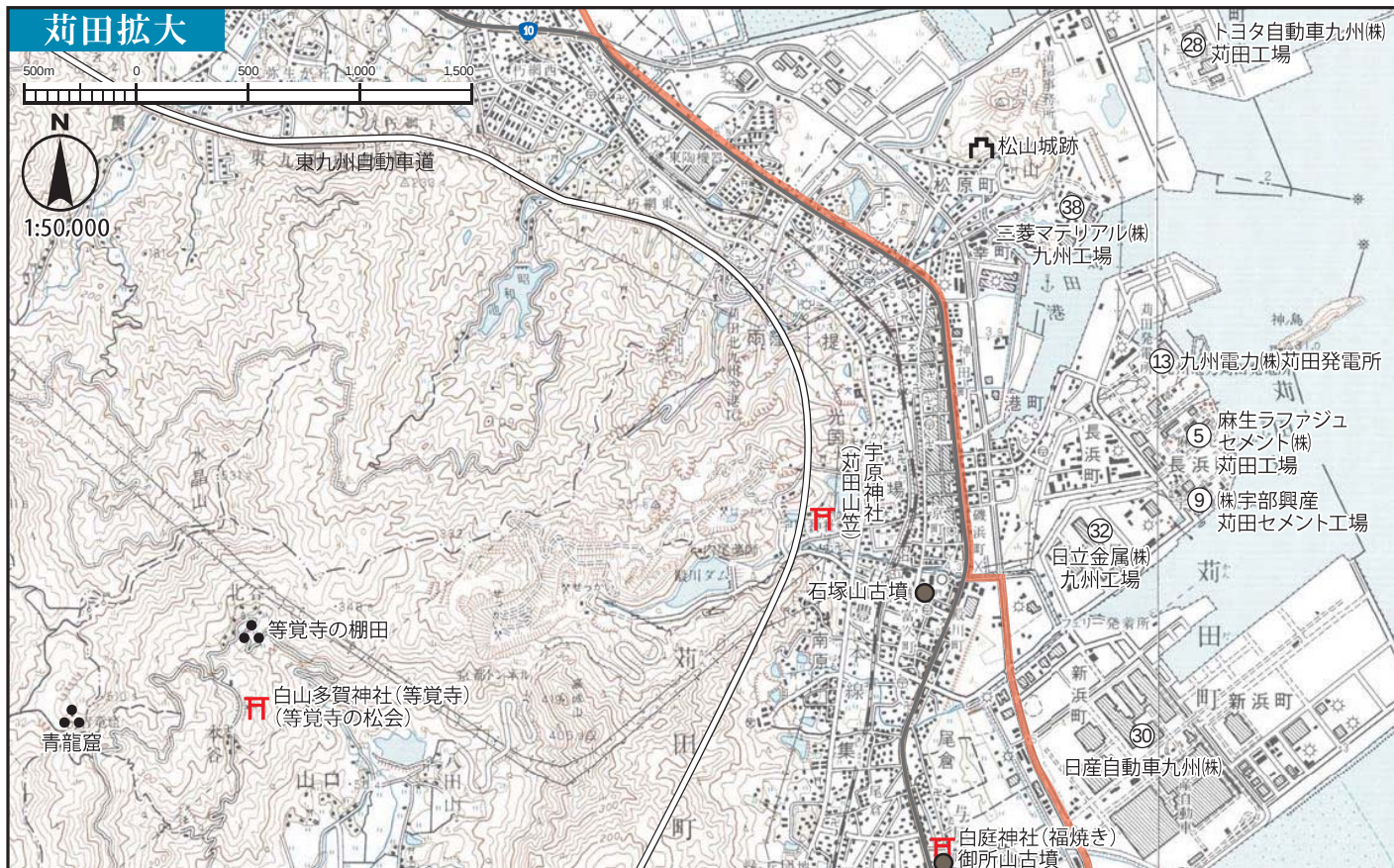
⑮ 岳切溪谷（椎耶馬溪：宇佐市市）



⑭ 奇岩で知られる鹿嵐山(宇佐市)

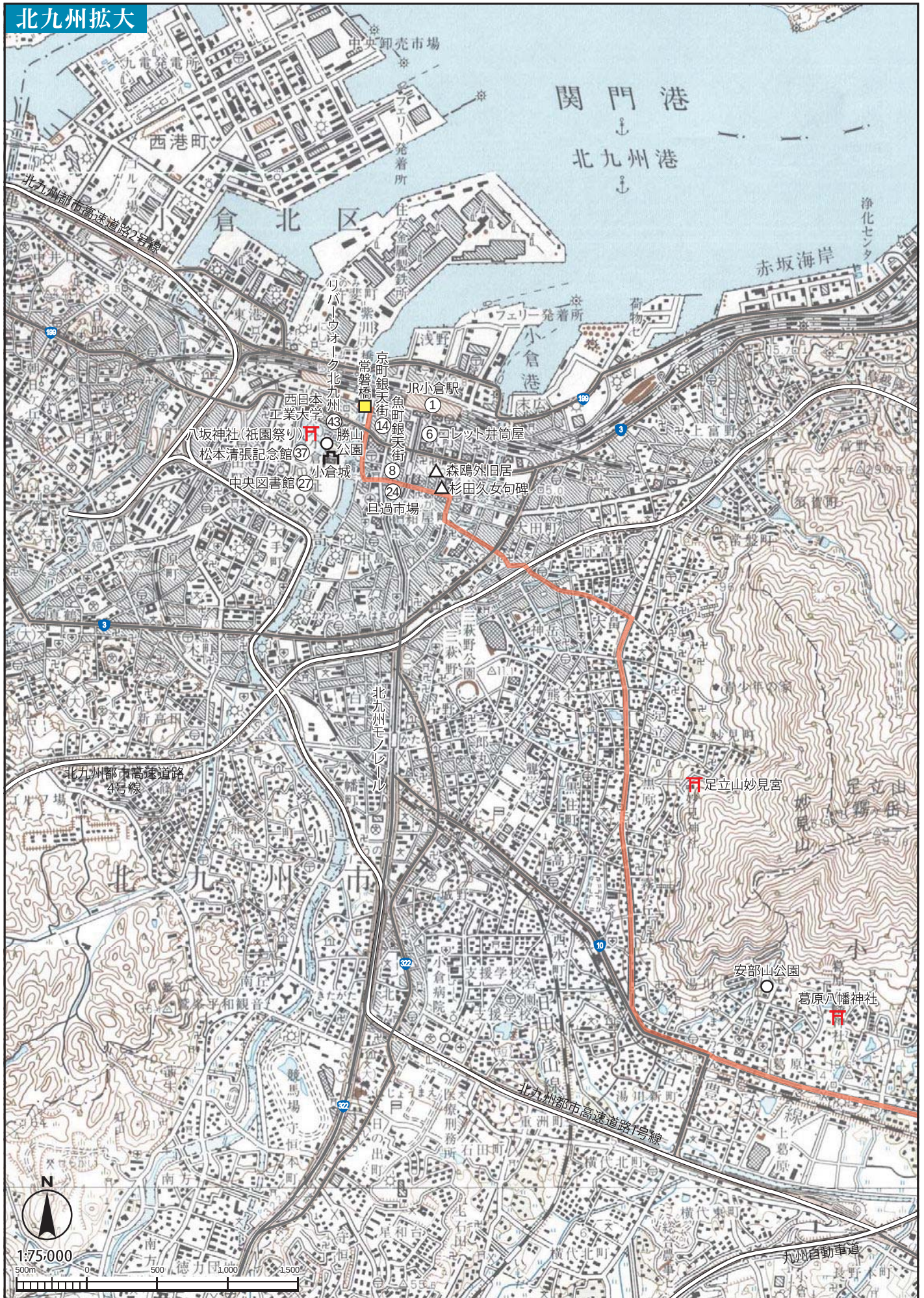
表12 情報案内所と宿泊施設			
地域	情報案内所	住所	電話
中津	中津市役所観光課	中津市豊田町14-3	0979-22-1111
	中津耶馬溪観光協会	中津市豊田町8-8	0979-64-6565
地域	宿泊施設	住所	電話
中津	こがね山荘	中津市三光田口584-1	0979-26-8066
	ホテルルートイン中津駅前	中津市中殿467-3	0979-85-0050
	スーパーホテル大分・中津駅前	中津市東本町3-12	0979-23-9000
	ビジネスホテルナカツ	中津市東本町3-19	0979-24-1888
	ビジネス民宿 汽車ポッポ	中津市万田500-1	0979-22-0275
	耶馬溪観光ホテル	中津市耶馬溪町深耶馬2969	0979-55-2121
	オーベルジュ 楓乃木	中津市耶馬溪町深耶馬3189	0979-55-2222
	つきのほたる	中津市耶馬溪町深耶馬2142-1	0979-55-2259
	宇佐市役所観光まちづくり課	宇佐市上田1030-1	0978-32-1111
	宇佐市観光協会	宇佐市南宇佐2179-3	0978-37-0202
宇佐	宇佐市観光協会院内支部	宇佐市院内町副1381-2	0978-42-6040
	宇佐市観光協会安心院支部	宇佐市安心院町下毛2074-1	0978-34-4839
	宇佐ホテルリバーサイド	宇佐市別府6番	0978-33-2222
	ホテルパブリック21	宇佐市幸島	0978-33-3355
宇佐	温泉・民宿 三万七千石	宇佐市安心院町下毛	0978-44-1171
	みずほ温泉荘	宇佐市出光159-1	0978-37-0211
	津房館	宇佐市安心院町六郎丸	0978-48-2208

表11 特産品				
地域	品名	取扱い店	住所	電話
中津	鰻(ハモ)料理	瑠璃京	中津市島田仲町1303-15	0979-22-1470
	鰻(ハモ)のしゃぶしゃぶ等	筑紫亭	中津市枝町1692	0979-22-3441
	本耶馬溪地蕎麦	オアシス耶馬洞門店	中津市本耶馬溪町藤田286-5	0979-52-3211
	そばの加工品、そば打ち体験	道の駅 耶馬トピア	中津市耶馬溪町曾木	0979-52-3030
	唐揚げ定食、郷土料理等	山川亭	中津市耶馬溪町曾木	0979-52-2847
	老万円札煎餅	耶馬溪物産観光	中津市島田仲町795	0979-24-5284
	巻柿(和菓子)	耶馬溪物産観光	中津市島田仲町795	0979-24-5284
	惣菜販バイキング、田舎料理	道の駅「やまくに」	中津市山国町中摩338-1	0979-62-3680
	豊後牛料理、スッポン料理等	ワイナリーレストラン 朝霧の店	安心院町下毛828-2	0978-44-1236
	味一ねぎ	ねぎ屋さんのねぎ焼き	宇佐市南宇佐222-1	080-1539-2686
宇佐	江戸前寿司	ひ婦美寿し	宇佐市四日市1465-4	0978-32-0153
	カンパチしゃぶ、うま手羽等	おきらく酒家	宇佐市四日市1460-3	0978-33-4400
	安心院のすっぽん	料亭 やまさ安心院	宇佐市安心院町下毛1785	0120-393-803
	宇佐の焼酎	四ッ谷酒造有限会社	宇佐市長洲4130	0978-38-0148
	ゆず加工品(ゆずぽん、酢橘等)	道の駅「いんない」	宇佐市院内町副1381-2	0978-42-5539



凡 例	● 景勝地	博物館等	道の駅	自動車専用道	一般国道
神社	△ 史跡	長大橋・ダム	○ その他の景観	豊の国	駐車場
寺	● 古墳	展望台	① 施設	歴史ロマン街道の中心となる道路	
教会	城・城跡	市役所・町役場			

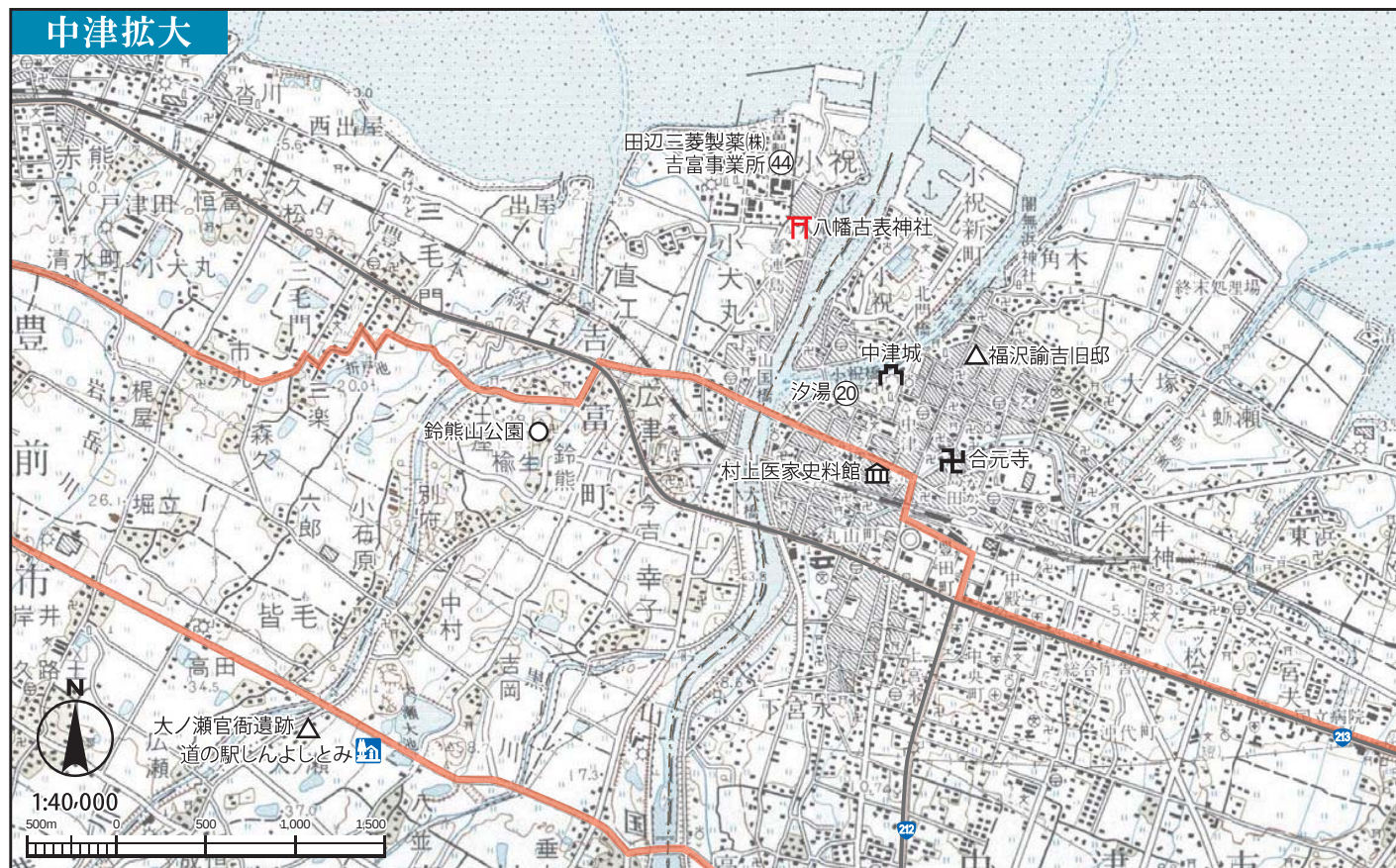
北九州拡大



椎田拡大



中津拡大



凡例

神社
寺
教会

景勝地
史跡
古墳
城・城跡

博物館等
長大橋・ダム
展望台
市役所・町役場

道の駅
その他の景観
① 施設

自動車専用道
一般国道
豊の国
歴史ロマン街道の中心となる道路
駐車場

Memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州 Q-10 豊の国歴史ロマン街道

平成 28 年 3 月 31 日 第 1 版

日本風景街道九州ガイドブック編纂委員会

樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉武哲信、榎谷秀秋

豊の国歴史ロマン街道担当（文責） 堤 昌文

協 力：豊の国風景街道推進協議会

発 行 九州風景街道推進会議

風景街道推進会議事務局（九州地方整備局道路計画第二課内）



本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上での例外を除き禁じられています。